



海洋建築工学科

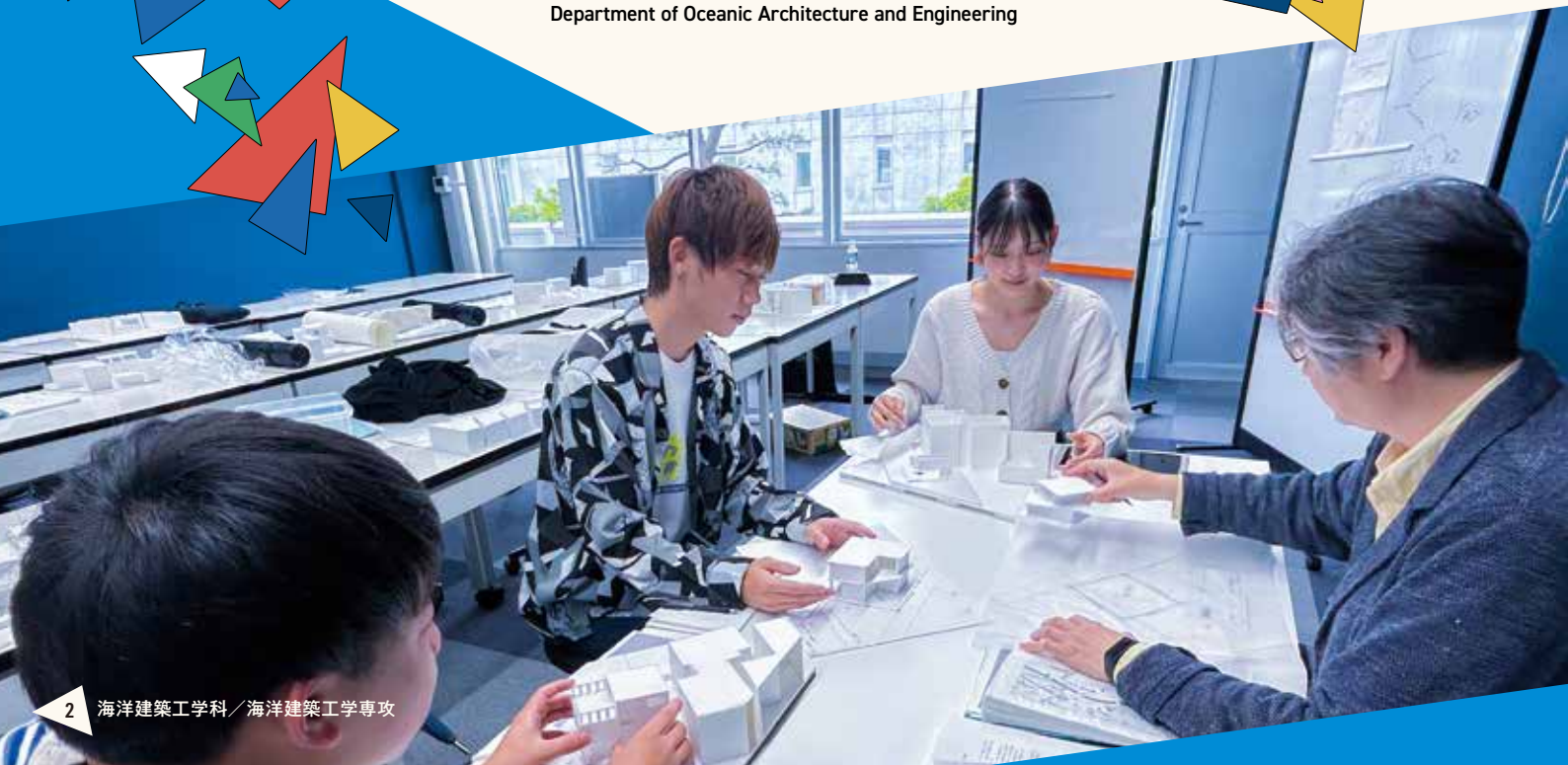
建築のその先へ

海洋建築工学専攻



建築のその先へ

Department of Oceanic Architecture and Engineering





各ページのQRコードから、
さらに詳しい情報をご覧ください。



学科紹介

01

Expertise of Architectural Engineering

建築工学の 専門知識の修得

海洋建築工学の基礎となる建築工学の専門知識を修得し、陸・沿岸・海洋で建築できる建築技術者を目指す。

02

Planning / Design Technology

計画・デザイン技術の修得

海洋及びウォーターフロントの空間利用及び開発手法に関わる専門知識を修得する。人間社会が快適な営みをするために、自然環境と調和のとれた都市空間、ウォーターフロント及び海洋空間の計画・デザイン技術を修得する。

計画系 P.12-13

03

Structural Design

構造技術の修得

過酷な自然条件に対応した建築物の構造設計・施工に関わる構造技術を修得する。広い視野に立った豊かな発想力・技術力・問題解決能力を養い、建築物や海洋建築物に適した構造形式の選定や構造技術を弾力的に開発できる能力を身につける。

構造系 P.14-15

04

Environmental Technology

環境技術の修得

ウォーターフロントや海洋空間の環境を理解し、海洋建築物の計画・設計・施工に反映させる環境技術を修得する。快適かつ環境に配慮した建築物や海洋建築物に必要な環境を維持・管理・保全するための技術を修得する。

環境系 P.16-17

05

Engineer with high ethical standards

高い倫理観を持つ 技術者の養成

海洋建築工学科が「学修・教育目標」に掲げる高度な技術について、その便益と不利益の双方を理解し見分けて利用できる優れた行動規範を養成する。

本学科では、教育研究上の目的に定める人と地球環境に優しい建築物や都市空間を計画・設計・施工できる建築家・技術者を養成するため、こちらの**5つの能力**を身につけることを目標としています。

海洋建築工学科では、建築学の基礎知識を修得するとともに、海洋及びウォーターフロントの環境を理解し、防災安全に優れ多様な立地環境に適合できる建築構造、快適かつ自然環境や景観に配慮した都市・建築計画などを学び、人と地球環境に優しい都市や建物を計画・設計・施工できる建築家・技術者を養成しています。



「HONEYCOMB」

椿井 結月
ベーシックデザイン演習課題(マイ・スペース+others)



「時代を跨ぐ伝統住宅」

畑口 優太
デザイン演習I課題(住宅)

斬新・繊細… そして、未来へ繋がる提案

海洋建築工学科では、学生の設計作品が「毎日・DASデザイン賞」で6年連続日本一を受賞するなど、1978年の開校から約45年間で35作品が日本一に輝いているほか、300作品以上がコンペで受賞しています。また、ナノテクノロジーによるセルロースナノファイバーなどの新しい素材や、海洋プラスチックごみを再利用した建築など、海の資質を活かし、SDGsに取り組む提案も行っています。

「Wind Terminal」

小野田 鼓
デザイン演習III課題(海の駅)



「未来都市 HAMA」

石野田 蘭、小野田 鼓、小林 弘真、斉藤 光
建築計画及び演習課題(ランドスケープ)





「絶海の未来航路 - 宇宙輸送技術を活用した離島型宇宙港の提案 -」

浅井 駿来 (現、日本大学大学院)
千葉県建築学生賞 特別賞、市民賞受賞



「塵海の廻都」

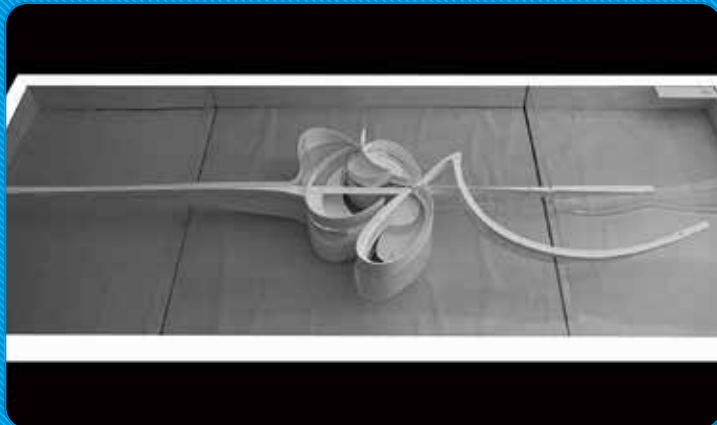
黄 起範 (現、鹿島建設設計部)
第49回毎日・DAS学生デザイン賞グランプリ「金の卵賞」



▲ 日本一受賞実績：卒業設計23作品、建築学会コンペ1作品、その他コンペ12作品

「遷ろう風景」

杉田 陽平 (現、竹中工務店設計部)
第43回毎日・DAS学生デザイン賞グランプリ「金の卵賞」



「切断すること、それは繋ぐこと 日本橋における首都高速道路の再歴史化」

横畑 佑樹 (現、乃村工藝社)
2020年 千葉県建築学生賞 最優秀賞受賞





人々の豊かな生活に真に貢献する 「海洋建築工学科」の実践力

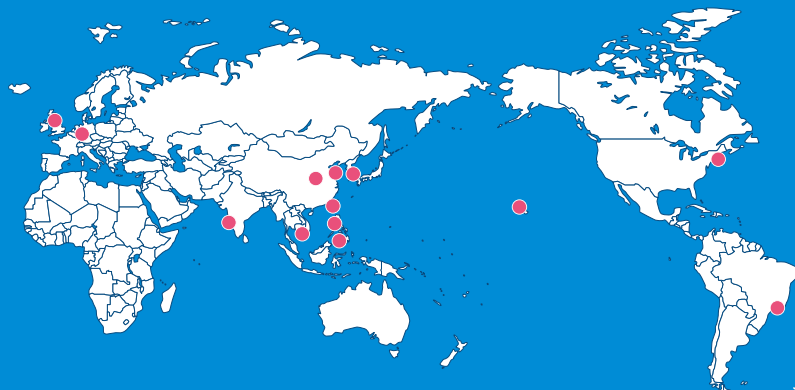
海洋建築工学科には国内有数の充実した実験施設があり、実施されている研究は、都市デザイン・防災・資源エネルギー・環境保全など多岐に渡ります。自治体や企業と共同で行うプロジェクトも多く、学生が主体となって取り組むこともできます。また、日本国内だけではなく、世界中の大学とも積極的に交流をしています。



世界へ広がる学術交流

本学科では、国際学術研究活動の充実及び教育研究における国際交流の促進を積極的に行っています。

- スイートスクライド大学(スコットランド、イギリス)
- ダルムシュタット工科大学(ドイツ)
- 国立カルナタカ工科大学(インド)
- ホーチミン市天然資源環境大学(ベトナム)
- 西安理工大学(中国) ● 西安建築科技大学(中国) ● 青島理工大学(中国)
- 韓国海洋大学校(韓国)
- 国立成功大学(台湾)
- フィリピン工科大学(フィリピン) ● セブ工科大学(フィリピン)
- ハワイ大学(アメリカ) ● マサチューセッツ工科大学(アメリカ)
- サンパウロ大学(ブラジル)



P6左上 ▶ 宮城県気仙沼市における建築一体化防潮堤の提案。海洋建築工学科+交通システム工学科+大成建設設計部の共同提案。

P6右上 ▶ 中華人民共和国ハルビン市 佐藤信治 + AtelierK + 中国建築科学研究院の共同設計

P6左下 ▶ ハニカムチューブPCシステム実験

P6右下 ▶ 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との波力発電装置の実証実験(山形県・酒田港)

P7左下 ▶ Bamboo Pergola(東京都港区・お台場海浜公園における竹を使用した日除けと海辺の図書館)

P7右下 ▶ 福井県敦賀市水島での海岸環境修復活動



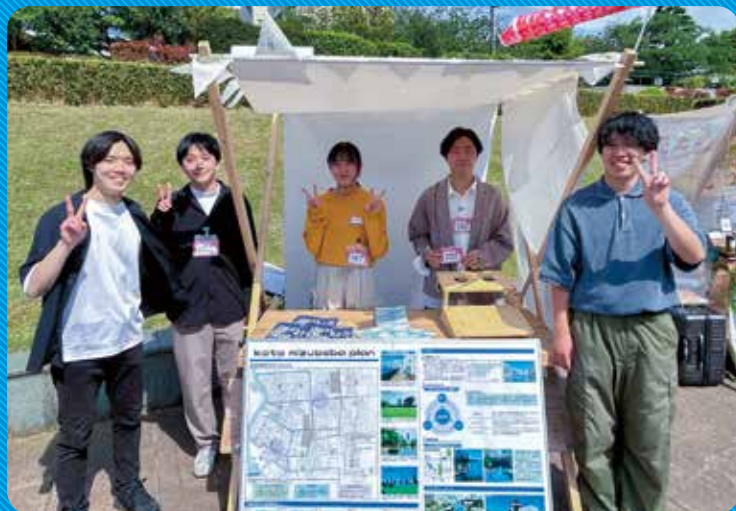


楽しみながら学ぶ、充実の学生生活

～海が好き、建築が好き、海洋建築工学科～

海洋建築工学科は、学生と教員の距離が近いのも大きな特徴です。皆さんの将来の夢を実現させるため、授業や研究、イベントを通じ、学科一丸となって4年間サポートをしていきます。





P8左上 ▶ 1年生では海洋建築工学の基礎や設計製図を段階的に学んでいます。授業では少人数教育を多く実践し、学生の理解度に合わせた指導を行っています。

P8左下 ▶ 海洋建築工学科の授業では、建築実験以外にも、大型の水槽を用いた水波に関する実験を行います。特殊な水槽を用い、波の形状や特性をとらえることで、建築物や都市にどのような影響が出るか考えられるようになります。

P8右上 ▶ 1年生後期からは実験・演習を通して技術を修得します。例えば、実験の授業では、実際に自分たちで部材を作り、それを壊すことによって構造部材の特性を身につけていきます。

P8右下 ▶ 3年生からはより専門的な知識を身につけるため、各研究室に所属します。研究では、指導担当教員による指導を受けるだけでなく、海洋建築工学科が所有する実験研究施設を学生が主体となって使用することができます。



P9左上 ▶ 研究活動は学外でも多く行っています。様々なイベントへの出展や、企業等と共同研究を行うこともあり、幅広い人と交流する機会があります。

P9左下 ▶ 海洋建築工学科では、学科独自に学生との個別面談を年2回実施しています。学生の進路や学業に関する相談については、学科全体でサポートをしていくというも本学科の大きな特徴です。

P9右上 ▶ 韓国海洋大学、青島理工大学との学術交流プログラムの一環で、日韓中の学生混成チームによる設計競技（デザインキャンプ）を開催しています。

P9右下 ▶ 学生生活の集大成となる卒業研究は、知識や技術の向上だけでなく、文章力やプレゼンテーション能力の向上も図っています。また、卒業研究の成果を教員や学生の前でプレゼンする発表会も行われます。





カリキュラムの特徴

1年生では専門教育の基礎に相当する科目を学ぶとともに、社会人として求められる幅広い教養とコミュニケーション力を身につけます。2、3年生には、より専門性の高い科目が設置され、意匠・計画を学ぶデザイン演習、実現象を体験し理解する実験・実習の科目、建築物の構造設計に必要な知識を修得する構造力学、材料・施工法及び建築計画などの科目、海洋建築物の建設に最も重要な海洋環境の理解を目的とした科目から構成されています。さらに3年生からのゼミナールでは、授業の枠を超えて高度な知識・技術を身につけるために、少人数教育の授業が行われています。

海洋建築工学科 総合科目

1年	● 海洋建築工学インセンティブ ● 海と建築	● 情報基礎
2年	○ 応用数学及び演習 ○ 情報システム概論	○ 海洋建築工学キャリアスタディ ○ コンピュータプログラミング
3年	● 海洋建築工学キャリアデザイン	○ ゼミナール
4年	● 卒業研究 ● 総合演習	● 海洋建築工学総合演習
	● 必須科目 ○ 選択科目	

海洋建築工学専攻 総合科目

1年	海洋建築技術者倫理 海洋建築情報システム工学特論 計算工学特論Ⅱ(連統体力学) 海洋建築インターンシップⅠ・Ⅱ	計算工学特論Ⅰ(数値流体力学) 海洋建築プロジェクトマネジメント 海洋建築工学特別講義Ⅰ(寄付講座) 海洋工学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
2年	海洋建築特別演習 海洋工学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	海洋建築工学特別講義Ⅱ

専門教育科目のカリキュラムは「計画系科目群」、「構造系科目群」及び「環境系科目群」の3つの柱から構成されています。

これらの科目群の中から将来の技術者像にあわせて科目の選択ができ、

そこから得られる知識及び技術を将来的に生かせることができます。

計画系科目群

空間計画・
デザイン能力

PAGE: 12-13

構造系科目群

構造設計・
施工能力

PAGE: 14-15

環境系科目群

環境の持続的
利用能力

PAGE: 16-17



空間計画・デザイン能力

計画系科目群



▶ Spatial Planning / Design Ability

建築物を設計するために、都市やウォーターフロントなどに関わる空間計画手法とデザイン技術の知識を身につけ、人間に快適な陸域・海域に立地する建築物の計画・デザインができる。

PICK UP
01

個別指導による デザイン能力・表現力を養う

建築設計の基礎を学ぶデザイン演習では、建設会社や設計事務所で活躍する建築家を外部講師として招いています。1教員あたり15名程度の少人数クラスとし、個々の学生に合わせた指導を行います。また、一級建築士の製図試験に向けたクラスも設けています。



PICK UP
03

建築設計から都市計画、海洋空間計画まで、幅広い計画・設計手法を学ぶ

計画系科目群の学びを通じて様々な規模の都市・建築デザインができるようになります。住宅・水族館といった施設設計だけでなく、まちづくりの視点となる都市計画や、エネルギー開発などで需要が高まっている海洋空間の活用方法も学ぶことができます。





陸域・ウォーターフロント・海洋空間 と様々な視点から建築を考える

建築計画や都市計画の授業では、海や河川など水域があることで人や建築、環境にどのようなメリット・デメリットがあるかを学修します。海洋建築工学科だからこそ、ウォーターフロントや海洋空間の特性を活かした他にはない魅力的な建築を提案できるようになります。



デザインコンペへのチャレンジや 外部連携した授業で実践力を得る

4年生では、コンペへの出展を目標としたグループ設計や、自治体・企業と連携した計画演習も行っています。様々な人との意見交換やプレゼンテーションの機会を通じて、人に伝える表現力を身につけるとともに、就職に向け実践的な知識も修得していきます。



海洋建築工学科 計画系科目群 専門教育科目

1年

- ベーシックデザイン演習
- 建築計画Ⅰ

2年

- デザイン演習Ⅰ
- 建築計画Ⅱ
- 親水空間計画
- 建築法規
- デザイン演習Ⅱ
- 建築デザイン史
- ウォーターフロント計画Ⅰ
- 海洋資源と開発技術

3年

- デザイン演習Ⅲ
- 建築計画Ⅲ
- ウォーターフロント計画Ⅱ
- 海洋施設計画
- 建築計画及び演習
- 海洋空間計画と関連法規
- 防災安全工学

4年

- 総合演習(計画デザイン演習)
- 卒業研究

● 必須科目 ○ 選択科目

海洋建築工学専攻 計画系科目群 専門教育科目

1年

- 海洋建築計画特論
- 海洋建築デザイン特論
- 港湾空間計画特論
- 海洋空間利用計画特論
- 親水環境計画特論
- 海洋建築ユニバーサルデザイン特論
- ウォーターフロント計画特論
- 沿岸防災計画特論

2年

- 海洋環境工学特別研究
- 海洋空間利用計画特別研究
- 海洋建築構造工学特別研究
- 海洋建築工学特別研究

構造設計・施工能力

構造系科目群



▶ Structural Design / Construction Ability

人間の骨格にあたる建物の骨組みを設計・施工する能力を身につけます。構造材料の性質と特性に関する知識、建築物と海洋構造物に作用する力の解析方法、骨組の耐力の評価方法を学ぶことで、陸域の建物だけでなく海洋構造物の構造設計・施工ができるようになります。

PICK UP

01

「構造の日大」の構造力学を体得する

建物には自重のほかにも地震時には地震荷重（水平慣性力）が作用します。建物に荷重が作用した際の“力の釣合い”・“変形”・“耐力”について、基本から応用まで体系立てて学びます。構造力学の本質を修得するために、演習によるトレーニングによって実践力を身につけます。



PICK UP

03

建物を設計・施工するために必要な専門知識を修得する

実社会で多くの建物の研究開発・設計・施工に携わってきた経験豊富な教員から、建物を設計・施工するために必要な、実践に基づく最先端の技術を修得することができます。一級建築士取得のためにも欠かせない知識です。



PICK UP

02

構造実験を通して座学の理解を深める

安全・安心な建物を設計・施工できるようになるためには、構造実験による実現象の理解が欠かせません。A2画用紙一枚で100kgfの重量が支えられる梁の製作に挑戦したり、チームで製作する鉄筋コンクリート梁を破壊したりすることにより、モノ造りと構造の楽しさを学びます。



PICK UP

04

陸上建築のみならず海に浮かぶ建物についても学ぶ

限られた陸上空間だけではなく、海洋空間を利用するために海上に建物を建てるケースもあります。海上に建物を施工する方法や、建物を海底に固定させる方法、浮かせる方法について学び、安全性・居住性・機能性を確保するための技術を修得します。



提供：佐藤工業株式会社

海洋建築工学科 構造系科目群 専門教育科目

1年

- 力学基礎
- 建築構造及び材料Ⅰ
- 構造力学及び演習Ⅰ
- 海洋建築実験ⅠB

2年

- 建築構造及び材料Ⅱ
- 構造力学及び演習Ⅱ
- 海洋建築の材料と施工法
- 建築施工法
- 地盤環境工学
- 構造力学及び演習Ⅲ
- 海洋建築実験ⅡB

3年

- 海洋建築物の構造計画
- コンクリート構造及び演習
- 構造解析
- 構造力学及び演習Ⅳ
- 海洋建築実験Ⅲ
- 浮体工学及び演習
- 鋼構造及び演習
- 振動工学

4年

- 総合演習(建築構造設計)
- 総合演習(海洋建築構造設計)
- 卒業研究

● 必須科目 ○ 選択科目

海洋建築工学専攻 構造系科目群 専門教育科目

1年

- 耐震構造設計特論
- 海洋建築構造工学特論Ⅰ(構造システム工学)
- 地盤基礎工学特論
- 浮体工学特論
- 海洋構造物建設特論
- 応答制御構造設計特論
- コンクリート構造工学特論
- 海洋建築構造工学特論Ⅱ(地震リスク評価)
- 海洋構造物設計特論
- 沿岸構造物設計特論

2年

- 海洋環境工学特別研究
- 海洋空間利用計画特別研究
- 海洋建築構造工学特別研究
- 海洋建築工学特別研究

環境の持続的利用能力

環境系科目群



▶ Ability to Use the Environment Sustainably

地球物理学や海洋環境学の基礎から応用までの知識を活かし、沿岸域や海洋環境の維持・管理・保全ができる。自然災害や防災の知識を活かし、沿岸域での安全・安心なまちづくりを立案できる。

PICK UP

01

海や沿岸の特性を学ぶ

1年生、2年生時には、夏に東京湾で調査船に乗る機会があります。海洋データの観測や生態環境の調査を実際に行うことで、基本的な海の特性を学んでいきます。



PICK UP

03

波や流れの物理特性を学ぶ

環境系科目群の実験では、二次元水槽を用い、波の特性を横から観測します。これにより、波を受ける海岸線や建築物にどのような影響が生じるかを知ることができます。



PICK UP

02

海や沿岸の環境や生態系を学ぶ

沿岸域でまちづくり等の開発を行う際には、自然環境との共生を考えることが重要です。持続可能な開発を行えるエンジニアとして活躍するため、海の環境や生態系、人間による影響とその評価手法を学びます。



PICK UP

04

自然災害と防災について学ぶ

自然災害や防災について学ぶのも環境系科目群の重要な役割です。津波や台風による高潮によって、沿岸部ではどのような災害が発生するのか、それを防ぐにはどうしたらよいのかを学ぶことができます。



海洋建築工学科 環境系科目群 専門教育科目

1 年

- 海洋建築実験ⅠA
- 基礎海洋学

2 年

- 海洋建築実験ⅡA
- 海洋及び環境計測
- 海洋流体力学及び演習
- 海洋環境工学Ⅰ
- 水波工学及び演習
- 建築環境工学

3 年

- 海洋環境工学Ⅱ
- 沿岸域工学及び演習
- 建築設備
- 海洋環境アセスメント

4 年

- 総合演習(海洋環境影響評価)
- 卒業研究

● 必須科目 ○ 選択科目

海洋建築工学専攻 環境系科目群 専門教育科目

1 年

- 海洋環境工学特論Ⅰ(海洋物理環境)
- 海洋システム工学特論
- 海洋計測工学特論
- 水波工学特論
- 海洋環境工学特論Ⅱ(海洋化学生物環境)
- 海洋環境マネジメント特論

2 年

- 海洋環境工学特別研究
- 海洋空間利用計画特別研究
- 海洋建築構造工学特別研究
- 海洋建築工学特別研究



時代に即した就職支援プログラムと日本大学の強固な

OB・OG ネットワークにより、毎年100%の就職率を達成しています。

経済動向により大きく変化する就職環境への対応と、早期に自己の将来像を確立させることを目的とした **キャリアデザインの授業** があります。2年生では **業界説明** や各方面で活躍する **OB・OGによる講演会**、3年生では就職が決まった学生による **内定者座談会やインターンシップ・適性検査・履歴書・面接に関する対策講座** を行っており、就活実践力を高めています。さらに、建設業を志望する学生向けに本学建築学科との共催による巨大なOB・OGネットワークを活かしたイベントを、海洋・海洋建設関連業を志望する学生向けには学科独自開催による **海建OB・OGとの懇談会** を開催し、優良企業と学生を有機的につないでいます。

主な就職先(実績)

建設業

大林組/鹿島建設/清水建設/大成建設/竹中工務店/長谷工コーポレーション/戸田建設/前田建設工業/安藤ハザマ/三井住友建設/フジタ/熊谷組/西松建設/東急建設/北野建設/鴻池組/高松建設/奥村組/鉄建建設/青木あすなろ建設/東鉄工業/飛鳥建設/ピーエス三菱/松井建設

設計・コンサル業

NTT ファシリティーズ/日建設計/三菱地所設計/日本設計/久米設計/JR 東日本建設設計事務所/山下設計/梓設計/佐藤総合計画/松田平田設計/安井建築設計事務所/大建設計/石本建築事務所/横河建築設計事務所/伊藤喜三郎建築設計事務所/日本工営/パシフィックコンサルタンツ/建設技術研究所/八千代エンジニアリング/オリエンタルコンサルタンツ/エイト日本技術開発/日水コン/三井共同建設コンサルタント/国際航業/ニュージェック/いであ/東電設計/大日本コンサルタント/長大/オオバ/東京建設コンサルタント/アジア航測/日本港湾コンサルタント/日本 ERI /昭和設計

住宅・不動産業

大和ハウス工業/積水ハウス/住友林業/旭化成ホームズ/セキスイハイム/ミサワホーム/一条工務店/パナソニックホーム/オープンハウス/三菱地所ホーム/タマホーム/野村不動産/住友不動産/三井不動産/スターツ/山万/伊藤忠アーバンコミュニティ/東急ホームズ/ボラス

海洋・海洋建設関連

五洋建設/東亜建設工業/東洋建設/若築建設/不動テトラ/深田サルベージ建設/ジャパンマリユニテッド/日立造船/三井 E&S /三井海洋開発/JFE エンジニアリング/日揮 HD /千代田化工建設/東洋エンジニアリング/東芝プラントシステム

設備関連業

新菱冷熱工業/高砂熱学工業/新日本空調/関電工/タカラスタンダード/能美防災/YKK AP

公務員

国土交通省/経済産業省/財務省/防衛省/水産庁/東京都/千葉県/神奈川県/埼玉県/茨城県/山梨県/静岡県/石川県/広島県/佐賀県/長崎県/沖縄県/東京都教育委員会/東京 23 区/札幌市/仙台市/さいたま市/千葉市/川崎市/横浜市/名古屋市/京都市

その他

都市再生機構 (UR 都市機構) /海洋研究開発機構 (JAMSTEC) /エネルギー・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) /石油資源開発/漁港漁場漁村総合研究所/東京電力 HD/日本原子力発電/東日本旅客鉄道/NTT /ソフトバンク/大王製紙/栗田工業/乃村工務社/日本郵政/ゆうちょ銀行/オリエンタルランド

大学院進学

横田 拓也 よこた・たくや

博士後期課程 銚田第一高等学校(茨城)出身



私は幼い頃から海や湖などに訪れる機会が多く、水辺に親しみがあり、将来は海にかかわる仕事がしたいと考えていました。その中で海洋建築工学科を選んだのは、建築分野と海洋分野の両方を学ぶことのできる教育環境に魅力を感じたからです。入学後は海洋建築分野の中でも、海岸やその背後地などの沿岸域の環境保全に興味を持ち、卒業研究では風によって砂が移動する現象(飛砂)による、海岸背後地での地形変化についての研究を行いました。その後、自らの専門知識を深め、それを活かした仕事がしたいと思い大学院に進学し、現在は海岸および背後地の地形変化を一括して予測できる地形変化予測モデルの開発を行っています。将来は国内外の沿岸域の地域計画に携わり、そこに住む多くの人を幸せにしたいという目標を持ち、日々研究を行っています。



資格取得

資格

高い専門性を証明する

資格の取得に向けて

支援しています。

海洋建築工学科において、指定の科目単位を修得することで、**卒業と同時に一級建築士の受験資格**を得ることができます。また、技術士一次試験の受験も推奨しており、近年は在学中の合格者も増加しています。

目指せる資格

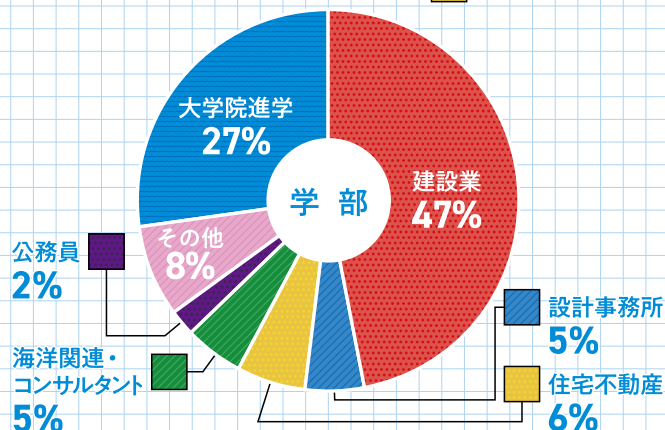
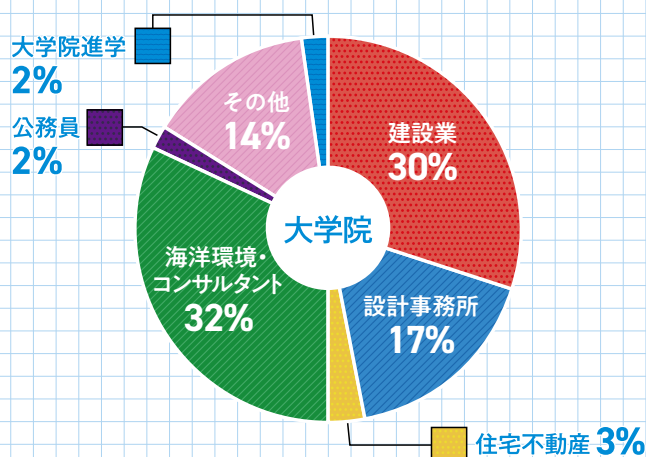
- ・ 建築士（一級・二級・木造建築士）
- ・ 構造設計一級建築士
- ・ 設備設計一級建築士
- ・ 技術士
- ・ 建築設備士
- ・ 建築施工管理技士（一級・二級）
- ・ 土木施工管理技士（一級・二級）
- ・ 管工事施工管理技士（一級・二級）
- ・ 不動産鑑定士
- ・ 宅地建物取引士
- ・ インテリアコーディネーター

資格取得支援講座

一級建築士学科対策基本講座・公務員試験対策講座・宅地建物取引士・基本情報技術者・技術士補（建設）・TOEIC 対策講座（e ラーニング）

教職課程

教職課程では、海洋建築工学科の所定科目を履修することで技術（中学校1種）・工業（高等学校1種）を取得でき、他学科設置の所定科目を履修することで数学や理科などの教育職員免許状を取得できます。



過去5年（2018～2023年度）の就職先業種分類



学科就職イベントの様子

Tell Me ENGINEER

カイケンを卒業した先輩たちは、さまざまな分野・業界でエンジニアとして活躍しています。皆さんも未来のエンジニアとして参考にしてみてください！



きっかわ たくや

桔川 卓也

2006年度卒業

NASCA 一級建築士事務所

環境と建築／私の設計手法

海洋建築では、建築設計の授業（デザイン演習）のほか、海を通じた地球物理学や海洋環境学を同時に学ぶことが出来ます。私は現在、全国各地で道の駅・学校施設・劇場・病院など様々な用途の建築設計に取り組んでいます。今は、海とは直接関係のある仕事には就いていませんが、都市の中にも様々な環境は存在していて、設計はその環境を読み解く力が求められます。私が大学で建築を学ぶ中で、常に“環境と建築”を同時に考えるプロセスを学べたことは、他大学の建築学科には無い特異性を得たものだと感じています。多様性と環境を重要視される現代において、海洋建築では学べることが多いと思います。



道の駅しょうなん てんと



おおつき たつお

大槻 達夫

修士

2007年度卒業

大成建設株式会社 都市開発本部
都市再開発第一部 課長

まちの個性を磨いて 都市の多様性をカタチにしていく仕事

都市のあるべき姿を広域で捉え、行政や地域の皆さんと課題を解決しながらカタチにしていくのが私の仕事です。対象区域はha単位、建築は勿論、道路や広場、鉄道等のインフラも含めて総合的に検討・調整をしていくため、関係者は数百名に及びます。また、計画作成のみならず、事業として動かしていくための不動産投資も担っています。様々なコンサルタントとも連携しながら、事業の真ん中に立ってプロジェクトを導いていく、やりがいのある仕事です。建築・都市・水環境等に関する4年間の学習の総仕上げである総合演習は、計画立案プロセスや共感を得るプレゼンテーション等を学んだ、今も活きる実践的なカリキュラムであったと感じています。



高層住宅の背後に広がる木造密集市街地 ▲
完成イメージ ▶





みやした ななえ

宮下 奈々恵

2017年度卒業

修士

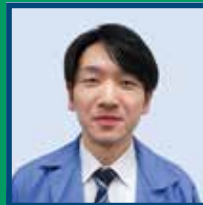
国土交通省 関東地方整備局
港湾空港部

日本の玄関口 港湾と空港の機能強化を目指して

国土交通省 関東地方整備局 港湾空港部では、港湾や空港の整備を通じて首都圏の国際競争力強化を行うべく、横浜港など主要港湾の港湾施設および東京国際空港の空港施設の整備を行っています。わたしは、現在、千葉港の岸壁改良工事の設計、施工検討および積算業務を担当しています。港湾工事の現場では施工中に、波や風など気象・海象の影響を受けることがよくあります。海洋建築工学科では、海洋建築実験で水槽実験や風洞実験などを行いますので、構造物に作用する波の力・風の力について理解が深まると思います。そのときの経験・知識が現在の業務に役立っています。在学中は、講義を通して、海を知ること、海を好きになることが大事です！



▲千葉港千葉中央地区岸壁改良工事
▼横浜港のコンテナ船



にしもり たくや

西森 拓哉

2016年度卒業

深田サルベージ建設株式会社
東京支社 洋上風力プロジェクト部

洋上風力発電の施工検討

私は2017年に入社し工事課に配属され、当社所有の大型クレーン船を用いた橋梁架設・鋼構造物据付作業の他、台船輸送や漁礁据付工事等を実施してきました。現在の私は、脱炭素、再生可能エネルギーとして注目されている洋上風力発電事業におけるプロジェクト部門にて国立研究開発法人主導の実証実験や、洋上風力発電施工における特殊船舶を活用した施工検討等を実施しています。洋上での施工には波浪や動揺、風、潮流など不確定な要素の中で確実な作業が求められます。施工計画をたてるにあたり、海洋建築工学科で取り組んでいる構造力学や浮体工学の知識はとても役に立っています。



CAMPUS MAP

船橋キャンパス

敷地面積は東京ドーム6個分

海洋建築工学科の学生は、4年間船橋キャンパスで学びます。
広大で自然豊かな船橋キャンパスの中で、特に海洋建築工学科の学生が良く利用する施設を紹介します。

インターネットカフェでは、パソコンが使えるので、テスト前はここで勉強しています。

春にはサクラ、秋にはイチョウ並木が美しい四季を感じる船橋キャンパスは、とても気持ちが良い空間です。

6 中央門

7 13号館【研究室】

8 インターネットカフェ【13号館】

9 14号館【教室／学生相談室】

10 プラザ習志野
【学生食堂／コンビニエンスストア／購買部】

11 テクノスペース15

12 環境・防災都市共同研究センター

13 理工スポーツホール

14 図書館

15 PCルーム【12号館】

16 船橋日大前駅



研究施設・
設備紹介



① 水槽実験室【テクノプレース 15】

水槽実験室は、奥行27m×幅7m×水深1mの平面水槽と、長さ30m×幅60cmの二次元水槽があり、水槽に取り付けられている造波装置や造風装置を使用することで、波力による発電実験等海洋資源・エネルギー開発に関する研究や、津波の特性と建築物への影響に関する実証実験が行われています。

さまざまな波形パターンを再現してその特性を調査する「大型実験水槽」や、実物大の素材を用いて建築物の強度を調査する「大型構造物試験棟」など、日本有数の実験施設がそろっています。



② 氷海水槽【テクノプレース 15】

海洋建築物には、波力・流体力・風力以外にも結氷による「氷荷重」を考慮した設計が必要になります。氷海水槽ではマイナス35度までの超低温の氷海を再現することができ、極寒地における海洋構造物の安全な設計に関する実験が行われています。



③ 大型構造物試験センター

世界3位の規模を誇る、最大圧縮力30MN(3000ton)の大型構造物試験機が設置され、建物に使用される実物大の試験体を用いて実験を行うことが可能です。他にも、地震を再現する振動実験装置が設置され、耐震実験や振動実験等が行われています。



④ 大規模構造実験用反力壁・反力床

大型構造物試験センター内にある実験設備です。5階建ての建物相当の高さで、厚さ1.5mの巨大な壁と厚さ800mmの床を用いて大規模な構造物の破壊実験を行うことができます。この大きさを活かして、柱や梁などの建物のパーツの構造性能を調べる実験だけではなく、建物を破壊する実験も行われています。



⑤ 製図室【5号館】

2023年4月にリニューアルした設計製図の授業を行うための教室です。少人数用の教室となっており、学生一人一人に机が割り当てられ、デザインの専門家による個別指導を受けることができます。

最新情報更新中！



ウェブサイト
・
各種 SNS



学科 HP



LINE



facebook



X



YouTube



instagram



イベントスケジュール

6月 駿河台オープンキャンパス

教育プログラム、研究活動、就職状況、学生の設計作品、設計コンペ入選作品の展示等について、海洋建築工学科の教員と学生が説明します。学生による設計作品のプレゼンテーションも必見です！

8月 船橋オープンキャンパス

海洋建築工学科の魅力を紹介する学科ブースに加えて、国内有数の大型実験施設や設計演習を行う製図室を見学する「施設見学ツアー」を開催します。船橋キャンパスだからこそ体験できる貴重な機会です！

8月 ハイブリッド開催予定 総合型選抜受験相談会

総合型選抜の受験を予定している方のための相談会です。総合型選抜の受験対策、合格体験談、船橋キャンパスの施設見学、個別相談など、本イベントに参加しないと知ることができない大切な情報満載の相談会です。

11月 船橋キャンパスウォッチング

銀杏並木が黄金色に輝く船橋キャンパスを舞台に、国内有数の大型実験施設や製図室、学生の設計作品を巡ることができるオープンキャンパスです。文化祭(桜理祭)も開催されているので、学生の日常も見ることができますよ！

2~3月 ハイブリッド開催予定 一般選抜合格者向け相談会

一般選抜を合格した方のための相談会です。海洋建築工学科の学修内容やカリキュラムの特徴、4年間の学生生活などに関するご質問に何でもお答えします。船橋キャンパスにある国内有数の実験施設もご案内します。



NU CST



日本大学理工学部 海洋建築工学科

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1 (船橋キャンパス)

TEL: 047-469-5420 FAX: 047-467-9446

<https://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp/>